

沖縄の振興開発について

一一五〇六字

私のほうからは、沖縄の米軍基地問題に関連して何点かお尋ねをしていきたいと思っています。

予算委員会等の中ではこのことも論議されたと思いますけれども、当特別委員会におきましては、橋本政権で防衛庁長官並びに関発庁長官の両大臣がそれぞれ御就任なさつてからの初めての論議だというふうに思いますので、そういう視点もありますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

まず、米軍基地の代理署名の問題でございます。

三月十一日に福岡高裁那覇支部におきまして口頭弁論が行われまして、沖縄の大田知事が意見陳述をされました。

その意見陳述の内容は、残念ながらマスコミ等によつてしか知るよしがありませんけれども、そのマスコミによりますれば、大田知事は、国土の〇・六%の面積しかない沖縄に七五%の基地が集中しているわけでありまして、安保の重要性を言うならば全国民が平等に負担に應じるべきではないかと述べております。また、日米地位協定の中には基地は沖縄に設置するとは書いていないわけでありまして、沖縄の人々は五十年間、基地は嫌だ、我々も人間らしく扱つてほしいと訴え続けてきているのでありまして、人を犠牲にしてみずからの安全を図ることは人間社会にあつてはならないことではないか等々、代理署名を拒否した理由を含めまして述べておられるよ

うでございます。

この沖縄の心を切実に訴えた大田知事の発言から、私たちは改めてこの基地問題の一日も早い解決に向けて努力をしていかなければならぬというふうに思っているところでございますけれども、両大臣におかれましては、特に外務省が所管でございますが、それぞれの所管の大臣でございますので、それぞれのお立場から、これについての感想、また決意等を含めましてありましたら、お聞かせ願ひえればというふうに思うのであります。

岡部国務大臣 今般の大田知事の証言につきましては、私もマスコミで知っている限りでございますが、かねてから沖縄県が主張されてきたことを述べられたものだと思っております。

この問題につきましては、現在裁判所で係争中でございますので、その判断を見守つてまいりたいというふうに考えておりますが、いずれにいたしましても政府といたしましては、沖縄における米軍施設・区域の整理統合・縮小及び日米地位協定にかかわる諸問題につきましましては現在精力的に取り組んでいるところでありますし、私といたしましても、その推移を強い関心を持って見守つていきますと同時に、その進展を期待いたしております。

白井国務大臣 ただいま委員お話しのとおり、沖縄に我が国における米軍の基地が大変集中をしているわけでありまして、このことによりまして大変長い間沖縄県民には多くの御苦労とまた苦しみをとおえをしてきた、このことを私どもは強く認識をいたしているところでございます。

既に米国側との話し合いの場でございます。SACO等を通じまして、沖縄側の問題解決のために整理統合・縮小に向けて全力を尽くしているところでございます。

この裁判につきましても、やがて結審になるわけでございますが、私も重大な関心を持って見守っているところでございます。

池田委員 ありがとうございます。

政府としての基本的な押さえがあるわけでございますけれども、両大臣の個人的な意見でも結構なのであります。沖縄の心をどう理解しているのかというところが一番政策反映についても大事なところではないかと思っておりますけれども、その辺はいかがでしょうか。もう一度お願いしたいと思っております。

岡部国務大臣 先生御案内のとおり、沖縄は、戦中戦後大変に苦勞をされてきたところでありますし、今なお基地問題で大変な苦勞が続いておる、こういう地域でございますから、我々いたしましたしましては、その御苦勞に報いるためにも、この地域の振興発展に最大限の努力をしまいらなければならぬというふうにご考えておるところであります。

白井国務大臣 ただいま私がお話を申し上げましたとおり、戦中戦後、沖縄の県民の皆さん方には大変御苦勞をおかけいたしております。私もといたしましては、この問題は単に沖縄県の問題としてではなく、日本国民全体の問題として受けとめるべきだ、このように考えておりました。ぜひとも、日本本土にお住まいの皆さん方にも、この問題は自分と同じ立場ということをもって御理解をいた

だき、また今後御協力いただく必要があるのではないかと、こういうふうにご思っております。

池田委員 ありがとうございます。

痛みをどう感じて、そしてそれを感じれば感じるほど、政策として展開していかねばならぬというふうにご思っているわけであります。ですから、具体的な交渉の場面もありますでしょうし、それに臨む基本姿勢をどう持つかということにかかってくるのではないかと、ご思っております。

沖縄開発庁長官である岡部先生にお尋ねいたしますけれども、沖縄では、昨年三月に県として、二十一世紀に向けた沖縄のグランドデザインとして国際都市形成整備構想というものを打ち出したところでございます。それによりまして、都市基盤を南の交流拠点として整備しまして、二十一世紀に向けて活力と魅力にあふれる質の高い国際都市、そういう都市整備をしていこうということを目指しているというふうにご聞いています。この整備構想の実現に向けて最大の障害になるのは、やはり米軍の基地の問題ではないかと、ご思っております。

沖縄の振興開発につきましては、沖縄が本土に復帰して以来、振興開発計画に基づいて進めているわけであります。現在の第三次の計画は、平成四年九月に内閣総理大臣のもとで決定をされておりました。その振興開発計画に基づいて施策が進められているわけでありますけれども、この第三次計画の第二章の中におきましては、既に「米軍施設・区域の整理縮小と跡地の有効利用」ということが平

成四年にうたわれているわけでございます。

そこで、米軍の基地の整理縮小の問題につきましては、今、外務省を中心に外交を通していろいろやっているわけでありますけれども、沖縄開発庁としましては、この問題につきまして、この開発計画の項目については、過去どのように受けとめて、どのように推進してきたのか、そして今後どのようにしていこうとなされているのか、その辺のところをお尋ねしたいというふうに思います。

岡部国務大臣 沖縄開発庁といたしましては、返還跡地につきまして、従来も、地元の

(注) 「」内は引用部分